

(別添)

世界の人びとのためのJICA基金・業務完了報告書

1. 業務の概要:	
(1) 事業名	ケニア・ムインギ県ミグワニ郡における地域社会へのエイズ教育事業
(2) 実施団体名	(特活)アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)
(3) 実施期間	
(4) 実施国	ケニア共和国
(5) 活動地域	東部州ムインギ県ミグワニ郡(現行政表記:東部州ムインギ西県)
(6) 活動概要	<p>活動の背景:</p> <p>当会は 1998 年よりムインギ県ヌー郡・ムイ郡・グニ郡において保健・教育・環境分野を統合する参加型社会開発に取り組んでいる。うち 2007 年からの JICA 草の根技術協力事業の一活動として、グニ郡で、日常化しているエイズに対処するための住民へのエイズ教育を実施してきた。住民は、これまで、脅威のみを強調するエイズ教育や、HIV 感染の原因を不道德な性交渉と強く関連づけた言説にさらされ、危機意識は形成されるが、対処意識の形成が難しく、HIV 感染を疑う住民の社会的排除にもつながっている。当会は、エイズを理科的知識と社会的側面から包括的に理解することで、日常的な感染予防が可能であり、陽性者との共生も可能なことを提示しつつ、住民自身が、この基礎的な理解に沿って、地域の実情に即したエイズ対処を話し合う機会の形成に努めてきた。</p> <p>本申請事業は、新たな事業地として検討しているムインギ西県において、最初の導入事業として実施するもので、住民へのエイズ教育事業を実施する過程で、住民が抱える人間の安全保障上の課題を理解し、当会の事業実施姿勢への行政官や住民の理解をえて、その後の総合的な参加型社会開発をめざすものである。</p> <p>活動の目標:</p> <p>対象とするミグワニ郡内の 1 準区で、村の公的リーダーである村長老への保健・エイズ研修をとおして、村長老との関係構築を行なうとともに、エイズ問題について、理科的知識と地域固有の社会的側面への理解をうながす。また、村長老の協力で、地域の一般住民を直接対象としたエイズ学習会を開催し、住民がエイズを包括的に理解し、その理解の上で、地域のなかでエイズ問題に対処していくための話し合いの機会を形成する。</p> <p>なお、本事業は、今後、郡全域で総合的な事業展開を行なうための、予備調査的な事業と位置づけ、地域の現場情報の入手をめざすとともに、地域が、当会の事業姿勢について理解を深め受容されることをめざすものである。</p>

2. 業務実施結果:

(1) 実施した内容

【実施内容】ムインギ西県行政関係者と事業合意

当会は、1998年よりムインギ東県ヌー郡、ムイ郡、グニ郡において継続的に事業を実施してきたが、ムインギ西県での事業は本事業が初めてである。そのため、事業実施にあたり、ムインギ西県行政関係者を訪問し、本事業について説明し合意を得た。訪問した行政官関係者は、ムインギ西県県知事、ムインギ西県教育局長、ムインギ中央県保健官等である。当会は、ムインギ西県の全般的状況あるいはエイズに係る情報を十分に持っていないため、それらの情報収集も併せて行い、より効果的な事業実施を目指した。

【実施内容】ムインギ西県グタニ郡ザワ区ザワ準区・ムジオ二準区の2準区を事業地に選定

事業実施対象地域はムインギ西県内の1つの準区であり、その選定作業を行った。その過程で、ムインギ県ミグワニ郡がムインギ西県に昇格し、その結果として準区数が増え、それぞれの準区が抱える村の規模が想定していたものよりも小さくなったことを考慮すると、2つの準区で本事業を実施したほうが良いことがわかり、方針を変更した。

2準区の選定に関して、情報収集の結果から、県北部のグタニ郡ターナザウ区から1準区選定することとし、県南部からはグタニ郡グタニ区カクル口準区が候補地として挙がった。しかし、ターナザウ区は、他のNGOが保健・エイズに関連する事業を実施していること、また、交通の便が悪いことを考慮して本事業実施候補地からは除外することとした。グタニ区カクル口準区は、街が近いので当会のこれまでの活動地域と大きく性格が異なること、そして、政治が大きな影響力を持つことなどといった理由から、事業実施に際して困難が予想されるため、今回の事業実施は見送ることとした。

次に、ムインギ西県で活動しているNGOであるGENESISから候補地として県南部のグタニ郡ザワ区ムジオ二準区を推薦された。ザワ区はザワ準区、ムジオ二準区の2準区から成るが、2準区で25村と、それぞれの準区は比較的小規模であるため、2準区全てを対象として事業を実施することとした。

【実施内容】ザワ区長・村長老・地域リーダーとの事業合意形成会議を実施

ザワ区では区長を訪問した際、すでにザワ区の村長老と地域リーダーが招集されていた。なお、村長老は区長が任命する村の代表者で、行政と村との連絡を担っている公的リーダーであり、地域リーダーは退職教員などの学校関係者や宗教指導者、住民組織の議長などであった。このため区長、村長老、地域リーダーに対し、本事業の説明を行った。事業の流れとして、区長訪問後は村長老を対象にしたエイズおよび母性保護に関する研修会議を実施し、その後村住民を対象としたエイズならびに母性保護公開学習会を実施する予定であったが、区長、村長

老、地域リーダーとの話し合いの結果、村長老対象の研修会議の後、地域リーダーを対象にした同様の研修会議を別途実施し、その後村住民を対象とした公開学習会を実施することで合意した。

【実施内容】ザワ区の全村長老と地域リーダー対象としたエイズ・母性保護研修会議を実施し、地域情報の収集もあわせて実施

事業実施対象準区をザワ区の2準区(ザワ準区、ムジオニ準区)と決定したことを受け、住民を対象とした公開学習会に先立ち、村長老と地域リーダーをそれぞれ対象とした研修会議を実施した。どちら研修会議でも、当会および本事業を説明し、当会専門家による母性保護、エイズに関する研修が実施された。研修中の村長老たちの反応から、母性保護に関しては、当会のこれまでの活動地域に比べると知識量が多いが、重要な情報や知識が不足していることが窺え、エイズに関しては、様々な誤解が存在し、不確かな情報が流れていることなどが窺われた。また、村住民を対象とした公開学習会の1回目のトピックを母性保護かエイズかの選択を村長老に行なってもらったが、全てエイズを選択した。また、会場ならび日時の設定を行い、村長老に対し村住民に対する周知を依頼した。

【実施内容】ザワ区の村住民を対象としたエイズ・母性保護公開学習会を実施

当初の事業計画では、村訪問を行いエイズ公開学習会開催について村住民の同意を得た後、日を改めてエイズ公開学習会を実施する予定であったが、ムインギ東県での事業において日を改めてエイズ公開学習会を実施するのは村住民の時間的な負担が大きいという判断から、エイズ公開学習会の前に内容紹介の時間を設け、内容紹介の後、学習会の参加を続けて希望する村住民を対象に学習会を実施するという方法に変更した。そのため予定していたエイズ公開学習会に加えて、母性保護公開学習会も本事業で実施することとした。

ザワ準区・ムジオニ準区の2準区25村を8クラスターに分け、それぞれのクラスターにおいて、エイズ公開学習会と母性保護公開学習会を計16回実施した。

【実施内容】ムインギ西県グタニ郡ターナザウ区における事業形成調査の実施

ムインギ西県における次期の事業形成の可能性を検討するため、グタニ郡ターナザウ区において調査を実施した。次期の事業においては、本事業で実施した村住民への保健・エイズ教育事業以外に、当会がムインギ東県で実施している教室建設事業の実施を検討しているため、ターナザウ区の教育関係者及び学校を訪問し事業形成のための情報収集を行った。また、保健・エイズ教育事業については、本事業における事業地選定の過程において、ターナザウ区が有力な候補としてあげられたが、他のNGOが保健・エイズ関連事業を実施しているため候補から外した経緯があったので、ターナザウ区において今後当会がエイズ・保健教育事業を実施する可能性を検討するため、他のNGOの活動について情報収集を行った。

(2)実施成果:

【実施成果】

当会のムインギ西県における活動は本事業が始めてであり、一からの関係構築であったが、ムインギ西県の行政関係者は本事業に対し非常に協力的であった。その理由の一つには、ムインギ西県の中心であるミグワニ地域が、比較的裕福な地域とみなされているため、外部からの支援が少ないことがあげられる。そのため、ムインギ西県での本事業を歓迎し、協力してくれたものと考えられる。本事業は円滑に終了することができたが、その多くはムインギ西県の行政関係者の協力によるものである。当会は今後ムインギ西県での活動を拡大していくことを考えているが、本事業で構築された関係が今後の活動に資することになると思われる。

【実施成果】

事業地選定の過程において、比較的裕福と考えられているムインギ西県は一様ではなく、地域によって差が見られることが分かった。ムインギ西県の中心であるミグワニ郡は降雨量が多く、農業生産性も高いが、グタニ郡は相対的に降雨量が少ないと見られ、中でもグタニ郡ターナザウ区はムインギ西県の中でも最も厳しい状況に置かれていると考えられる。本事業においては、ターナザウ区での事業は実施しなかったが、今後のムインギ西県での事業形成では、ターナザウ区にも着目していくこととする。

また、ムインギ西県はナイロビとガリッサを結ぶ幹線道路が貫いており、候補地としてあがったグタニ郡カクル口準区のように街の近くに住民が多い。当会のこれまでの事業地であるムインギ東県と比べても、都市化の度合いが高く、住民の性格も異なることが予想される。本事業は当会にとってはムインギ西県における導入事業であるため、これまでの事業地と異なる性格を持つであろうカクル口準区は事業地として選定しなかったが、今後ムインギ西県で事業を拡大していく際には、都市化の度合いが高い地域に適するよう、当会の事業展開に新たな関与手法を検討する必要があるという課題が明らかになった。

【実施成果】

本事業においては、村住民を動機付ける存在としての村長老との関係構築を重要視していたが、ザワ区においては村長老との関係構築が円滑に進んだ。その理由としてはザワ区長が本事業に協力的であったこと、そしてザワ区長と村長老の関係が良好であったことがあげられる。また、本事業では、地域リーダーを対象にした活動は想定していなかったが、区長訪問の際同席していた地域リーダーが村長老と同様に、それぞれの地域で指導的な役割を果たしていると認められたことから、地域リーダーも対象に研修会議を行うこととした。地域リーダーも対象とすることにより、地域リーダーから村住民に対し本事業の内容が伝えられ、より村住民の本事業への参加の動機付けが強まったものと考えられる。

【実施成果】

村長者を対象としたエイズ・母性保護研修会議においては、ザワ区全 25 村のうち 23 村の村長者が参加した。村長者と当会専門家の間で活発に意見の交換がなされたが、その中でザワ区の村長者は、当会のこれまでの事業地に比べると知識量が多いが、重要な情報や知識が抜けていることが見て取られた。研修会議の最後に、公開学習会の日時設定を行い、エイズと母性保護の 2 つから先に実施することを希望する学習会を選択してもらった所、8 つのクラスター全てがエイズを選択し、エイズ問題に対する関心の高さが窺われた。

地域リーダーを対象としたエイズ・母性保護研修会議においては、学校関係者、宗教指導者、住民組織の議長など 32 人が参加した。こちらの研修会議も当会専門家との間で活発な意見交換が行われた。参加者からは学んだ内容を村住民に伝えるという発言があるなど、地域リーダーを通して村住民に正しい知識や情報が伝えられることが期待された。

【実施成果】

ザワ準区・ムジオニ準区の 2 準区 25 村を 8 クラスターに分け、それぞれのクラスターにおいて、エイズ公開学習会と母性保護公開学習会を計 16 回実施した。それぞれの学習会の参加者数は次頁の表の通りである。事業計画では、受益者数を 300 人と想定していたが、想定を上回り約 2 倍の 595 人が活動に参加した。その理由としては、エイズ・母性保護をトピックとした本事業が村住民の関心を集めたことと、ザワ区区長、村長老、地域リーダーを通じた村住民への働きかけが作用したためと考えられる。

エイズ公開学習会より母性保護学習会の参加者数が少なくなっているが、その理由としては母性保護というトピックが村住民にとって馴染みのないものであり、その内容が村住民に伝えられる際に、母性保護が含む性的な部分が強調して伝えられたため、一部の村住民が母性保護公開学習会を忌避したのと考えられる。また、母性保護公開学習会はいずれのクラスターでもエイズ公開学習会の後の 2 回目の学習会であり、1 回目のエイズ公開学習会に比べると、区長や村長老、地域リーダーからの働きかけが弱くなったためと考えられる。

村住民は様々な誤解や歪められた情報を持っているが、多くの村住民が公開学習会に参加し、当会の専門家を含め意見を交換する機会を持ったことは、標準的な情報を得たり確認したりするだけでなく、今後もエイズや母性保護について村住民同士が地域の中で話し合い、問題に対処していく端緒になることが期待される。

【実施成果】

ターナザウ区はティタニ教育区に包摂されている。ティタニ教育区には 11 の小学校が存在する。そのうちの 3 校が 2 年生や 3 年生までのいわゆる新設校である。当会は現在ムインギ東県において新設校を対象に教室建設を実施しており、次期のムインギ西県における事業では、新設校を対象とした教室建設の実施を検討している。そのため、ティタニ教育区内 11 校のうち新設校 3 校を含め 7 校を訪問し、それぞれの学校の情報を得た。新設校はそれぞれ教室建設のニーズが高いことが分かり、今後の事業形成の具体的な検討材料を得た。

また、保健・エイズ事業に関しては、ターナザウ区ではオランダの NGO である DORCAS がエイズ関連事業を展開しており、その内容は住民を対象としたエイズの啓発活動とエイズ検査の奨励であった。当会の事業内容とは必ずしも一致しないが、かなり大規模に事業を展開しているため、当会がターナザウ区で保健・エイズ事業を実施する際は影響を受けることは確かであると考えられるので、今後情報を精査し、事業形成について検討する必要がある。

対象村	準区	エイズ公開学習会 参加者数	母性保護公開学習 会参加者数	合計
マディーア村、キャンガンガ村 カトゥトゥ村	ザウ	42(男 7、女 35)	32(男 5、女 27)	74(男 12、女 62)
ザウ村、ムウィワノ村、ウニニ村	ザウ	33(男 19、女 14)	12(男 4、女 8)	45(男 23、女 22)
ムワンザナ村、イカブレ村 キリニキ村	ザウ	21(男 2、女 19)	6(男 2、女 4)	27(男 4、女 23)
カラソニ村、ズィム村	ザウ(カトテ ニ)	45(男 9、女 36)	21(男 8、女 13)	66(男 17、女 49)
ムンブニ村、シヨンゴニ村 キザヨニ村	ムジオニ	51(男 12、女 39)	20(男 2、女 18)	71(男 14、女 57)
ムジオニ村、ゴメニ村、 イェトワンベンバ村、イブリヤム村	ムジオニ	44(男 11、女 33)	61(男 14、女 47)	105(男 25、女 80)
カリンドンゴンゴ村、キザヤニ村 カトテニ村、カトゥング村	ザウ(カトテ ニ)	58(男 20、女 38)	23(男 8、女 15)	81(男 28、女 53)
カルマニ村、ミアニ村、 マウンバ村	ザウ(カトテ ニ)	71(男 13、女 58)	55(男 16、女 39)	126(男 29、女 97)
合計		365(男 93、女 272)	230(男 59、女 171)	595(男 152、女 443)

(3)得られた教訓など:

当会のエイズ公開学習会では、数ある感染経路及び予防方法について触れ、その中のひとつとして性交渉においてコンドームがエイズ予防に役立つこと、また、住民の中でまだコンドーム使用が習慣として根付いていないことから、コンドームの使用法を参加者に伝授し、コンドームを配布する。こうしたことから、参加者の中には、当会が性的なことについてのみ教えにきたと誤解を抱き、また、それを他人に伝える人がいたようである。そのため、2度目の学習会に参加したいという意思を持つ人にとって、そのうわさが参加に際する障害となったと考えられる。そのため、学習会において、当会は知識を伝達し、住民たち自身で問題を扱えるようにすることを目的にやってきたのだという当会の姿勢を伝える方法が改善・検討の余地があるものと思われる。

本事業において母性保護公開学習会を実施したが、母性保護という概念は住民にとって新しいものであり、大多数の人々がキリスト教信者であることが影響し、「母性保護は中絶を支持している」、「母性保護というのは、子どもを多く出産しないこと」、「母性保護は夫に近づくなということを伝えている」といった不信感や誤解を生むことがあった。そのため、当会のこれまでの事業地における学習会内容と全く同じでは住民に受け入れられにくいことが判明し、事業地ごとに宗教などの背景を考慮し、そのつど若干の変更や修正を加え、学習会に臨む必要があることがわかった。

本事業地では、当会のこれまでの事業地と比べ、住民たちがエイズに関して知識を多少持っていたことからエイズ問題について話すことは容易であるように感じられた。だが、その一方で、住民が自分の持っている知識に固執し、それを他の住民に認めさせようとする意図が学習会中に感じられたりすることもあり、知識の伝達という当会の姿勢から逸脱するような場面も見られた。そのため、そのような形で当会の学習会が利用されたりすることのないよう、何らかの手段が必要であること、また、住民に知識がある場合、住民の中で知識がないことを前提とした当会のファシリテーションノートも、新たな工夫を検討する必要があるということがわかった。

エイズ・母性保護公開学習会のどちらにおいても子どもが抱える危険について触れるが、そのことについて説明すると、参加者は困惑する。多くの場合子どもが抱える危険は性的な問題を含んでおり、親子間でそうした性的な事項について話す習慣が根付いていないためである。そのため、ただその問題を伝えるだけではなく、大人がどのように子どもが抱える危険を緩和できるかということ伝える必要があるということがわかった。

当会のこれまでの事業地および本事業地において、エイズ問題はエイズ検査と関連付けられて考えられる傾向があるため、当会のエイズ公開学習会に対して、検査を実施しにやってきたと考える人が本事業地では多かったようである。検査を実施するというのは当会の姿勢とは違っているため、そうした誤解を招かないために、学習会前に配布するちらしに、“この学習会の目的は検査ではなく知識の伝達であり、検査は行わない”という旨の文を追加する必要があることがわかった。

母性保護公開学習会において、参加者の理解を促すため、何枚かの図を使用し、学習会中にそれらを参加者に手渡して見せた。だが、参加者に図を渡してしまうと、参加者がその図に見入ってしまい、当会専門家によるファシリテーションに耳を傾けなくなるため、参加者に図を渡すよりも、当会専門家がその図を持って説明した方がよいということがわかった。

(4)今後の活動・フォローアップの方針:

本事業を実施するなかで、対象地域における基礎保健やエイズに関連する保健教育のニーズならびに小学校における教室建設のニーズ、地域のリーダーの当会事業への協力姿勢、地域住民の参加などが確認されたため、今後、本格的に包括的な社会開発事業の形成をめざすこととした。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

本事業地ではエイズの起源に対する関心が高く、そのような質問事項が多く挙がった。「アメリカの陰謀」説や、「ケニア政府による人口増加抑止」説など、憶測が流れており、人々はエイズそのものに対する関心というよりは、「エイズは誰によってもたらされたのか」に興味を抱いているようであった。

母性保護の学習会を実施している間、ほとんどの学習会で参加者から夫婦間で子どもの数や妊娠について話すことはないという意見が挙がった。男性は妻がいつ妊娠し始めるのかわからない、または知らない、そして、女性は妊娠したことを夫に言うのは3ヵ月くらい経ってからだという話が聞けた。

住民の大多数は自宅で出産するとのことで、病院は費用が高い、出産直後に母親にマッサージをしてくれる人がいないから嫌だという意見が挙がっていた。また、新生児を出産した直後、新生児を泣かせるために新生児を揺り動かしたり、新生児の近くで大きな音を鳴らすといった習慣があることが確認された。

現在では、昔のように複数の家族が共に暮らし、互いに助けあうということが少なくなっていることから母親の負担が増えているとのことで、出産1日後であっても、母親は水を汲みにいたり、薪を拾いにいくことがあるということであった。女性参加者は、このような状態に対し、男性は何も手伝ってくれないと文句をもらしていた。

本事業地では、世代間で情報を共有することが難しいという伝統的習慣があるため、参加者から子どもへ知識を伝達するのが難しいという背景がある。そのために、参加者からは、当会が若者向けに学習会を設定し、若者に知識を伝達してほしいという要望が多く挙がった。

(2) 活動の写真

別紙、写真資料を参照ください。



村長老を対象とした研修会議

村住民対象の公開学習会に先立ち、村長老を対象にエイズと母性保護について研修会議を実施した。研修は英語ではなく地域言語であるカンバ語で行われたため、村長老から理解しやすかったとの評価を得た。

撮影場所: ムインギ西県グタニ郡ザワ区長事務所
 撮影日: 2010年3月10日
 ファイル名: 1003_ko_001



地域リーダー研修会議

学校関係者や宗教指導者、住民組織の議長など地域で指導的な立場にある地域リーダーを対象に母性保護・エイズの研修を実施した。研修を受けた地域リーダーがそれぞれの村において学んだ内容を村住民に伝えることが期待される。

撮影場所: ムインギ西県グタニ郡ザワ区長事務所
 撮影日: 2010年3月25日
 ファイル名: 1003_ko_007



エイズ公開学習会①

ザワ区での公開学習会は非常に多くの参加者を得た。エイズに対する関心が高いようで、参加者から当会専門家に対し様々な質問が投げかけられた。

撮影場所: ミグワニ郡グタニ郡ザワ区ザワ準区カトテニ診療所前
 撮影日: 2010年4月16日
 ファイル名: 1004_ko_022



エイズ公開学習会②

参加者の学ぶ意欲は高く、エイズに対する関心が高いことが窺われた。村住民自身で考える場として当会の学習会は機能していると考えられる。

撮影場所: ミグワニ県グタニ郡ザワ区ザワ準区クワマルクダム
 撮影日: 2010年4月8日
 ファイル名: 1004_ko_013



エイズ公開学習会③

全般を通して村住民のエイズに対する関心は高く、このことからエイズが村住民にとって身近な問題となっていることが予想される。この学習会を通じて、エイズ問題に適切に対処できる知識、情報を伝えることは村住民のニーズに適っていると思われる。

撮影場所: ミグワニ県グタニ郡ザワ区ザワ準区カトテニダム
 撮影日: 2010年4月16日
 ファイル名: 1004_ko_019



母性保護公開学習会①

村住民にとって母性保護という概念は新しいものであったようで、このことがエイズ公開学習会に比べ参加者数が少なかった一因と考えられる。特に男性にとっては馴染みのないものであり、ある参加者男性は、妻の妊娠について何ヶ月か経った後で初めて知ることであった。

撮影場所: ムインギ西県グタニ郡ザワ区ムジョニ準区ムジョニマーケット
 撮影日: 2010年4月29日
 ファイル名: 1004_ko_028



母性保護公開学習会②

村住民同士、あるいは男女間で母性保護に関する話をする機会是非常に限られているため、この公開学習会でお互いに意見交換する場を持つことは、今後地域で住民自身が問題解決を図る際に重要であると考えられる。

撮影場所：ムインギ西県グタニ郡ザワ区ザワ準区クワマルクダム
撮影日：2010年4月28日
ファイル名：1004_ko_025



母性保護公開学習会③

参加者は、新生児や出産後の母親のケアについて誤った知識を持っていたが、この学習会を通じて、新生児や出産後の母親の持つリスクに対する認識が深まった。

撮影場所：ムインギ西県グタニ郡ザワ区カトテニ準区カトテニダム
撮影日：2010年5月7日
ファイル名：1004_ko_034



事業評価会議

当会専門家及び助手を交えて、母性保護公開学習会とエイズ公開学習会の振り返りを行うとともに、ザワ区での本事業全体の評価を行った。新しい事業地であるため、これまでの事業地と比較した際の特徴について活発に意見が交換された。

撮影場所：CanDoムインギ事務所
撮影日：2010年5月11日
ファイル名：1005_ko_001



小学校訪問①

ミグワニ県北部の乾燥地帯に位置するターナザウ区の小学校を訪問し、学校環境や施設状況を視察した。

撮影場所: ミグワニ県グタニ郡ターナザウ区イエンスバ準区
イエンスバ小学校
撮影日: 2010年5月13日
ファイル名: 1005_ko_046



小学校訪問②

ケニアの新設校は、教室が1つや2つの状態からスタートする。ターナザウ区の新設校も教室数はまだまだ十分ではなく、教室建設のニーズが高いことが見て取られた。この学校は木で作った教室を仮の教室として使用している。

撮影場所: ムインギ西県グタニ郡ターナザウ区ウィンゼーイ準区
イゼンゼ小学校
撮影日: 2010年5月12日
ファイル名: 1005_ko_018



小学校訪問③

この学校は、教室が1つもない状態であり、近くの教会やタン屋根の小屋を教室として利用していた。保護者による教室建設が始まっていたが、建設の完了までにはかなりの時間がかかりそうであった。

撮影場所: ムインギ西県グタニ郡ターナザウ区ウィンゼーイ準区
マサニ小学校
撮影日: 2010年5月12日
ファイル名: 1005_ko_026